# 奈良県の一般廃棄物処理事業の概要

平成 27 年度版

奈良県くらし創造部景観・環境局
廃棄物対策課

# 目　次

第１章　ごみ処理の概要　1
1　ごみの排出量
① 総排出量
② １人１日当たりの排出量
2　ごみ処理フローシート
3　ごみ処理の状況
① ごみ収集・処理の現況
② ごみ収集形態の状況
③ ごみ処理の内訳
④ 資源化の状況
⑤ 容器包装リサイクル法に基づく分別収集の状況
⑥ 廃棄物処理事業経費（ごみ）
4　ごみ処理施設の整備状況
① ごみ焼却施設
② ごみ燃料化施設
③ 粗大ごみ処理施設
④ 廃棄物再生利用施設
⑤ 最終処分場

第２章　し尿処理の概要　13
1　し尿の処理量
2　し尿処理フローシート
3　し尿処理の状況
① し尿収集・処理の現況
② し尿収集形態の状況
③ 廃棄物処理事業経費（し尿）
4　し尿処理施設の整備状況
① し尿処理施設
② コミュニティ・プラント

○資料編

1　一般廃棄物関係　19

Ⅰ　総括的事項　19
Ⅰ－１　市町村概要一覧
（１）　市町村面積・人口
（２）　一部事務組合構成市町村
Ⅰ－２　廃棄物処理事業経費

（１）歳入（ごみ、し尿）
（２）歳出（ごみ、し尿）
Ⅰ－３　廃棄物処理事業従事職員数（ごみ、し尿）
Ⅰ－４　許可・委託件数（ごみ、し尿）
Ⅰ－５　一般廃棄物処理業者数（ごみ、し尿）

Ⅱ　ごみ関係　28
Ⅱ－１　計画処理区域内人口
Ⅱ－２　ごみ処理体制
①処理体制（収集運搬・家庭系、事業系）
②処理体制（中間処理）
③処理体制（最終処分）
④処理手数料（家庭系、家庭系直接搬入）
⑤処理手数料（事業系、事業系直接搬入）
Ⅱ－３　ごみ収集
（１）収集方式・回数（家庭系、事業系）
（２）収集形態別収集量
（３）ごみ排出形態別収集量
Ⅱ－４　ごみ処理量
（１）焼却処理
（２）焼却以外の中間処理
（３）最終処分
（４）資源化の状況
①直接資源化
②施設処理に伴う資源化（焼却施設）
（粗大ごみ処理施設）
（資源化等を行う施設）
（ごみ燃料化施設）
③集団回収、リサイクル率
Ⅱ－５　ごみ収集運搬機材

Ⅲ　し尿関係　47
Ⅲ－１　計画処理区域内人口（し尿処理人口、汚水衛生処理率等）
Ⅲ－２　し尿収集の状況
Ⅲ－３　し尿処理の状況
Ⅲ－４　し尿収集機材

２　一般廃棄物担当窓口一覧　51

# ○　本　編

## 第１章　ごみ処理の概要

### １　ごみの排出量

#### ①　総排出量

平成 27 年度におけるごみの総排出量は、470,717 t/年であり、前年度に比べて 11,992 t/年の減少となっている。過去５年間のごみの総排出量の推移は、表１及び図１に示す。

#### ②　１人１日当たりの排出量

１人１日当たりの排出量は 926 g/日・人となり、前年度と比較して、増加傾向が見られる。過去５年間の１人１日当たりの排出量の推移は、表１及び図１に示す。

表１　ごみの排出量の推移

| | 総人口（人） | 伸び率（%） | 総排出量（t/年） | 伸び率（%） | １人１日当たりのごみ排出量（g/日・人） | 伸び率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 23 年度 | 1,411,454 | 99.6 | 475,295 | 98.6 | 920 | 98.8 |
| 平成 24 年度 | 1,409,575 | 99.9 | 470,054 | 98.9 | 914 | 99.3 |
| 平成 25 年度 | 1,404,418 | 99.6 | 470,501 | 100.1 | 918 | 100.4 |
| 平成 26 年度 | 1,396,355 | 99.4 | 482,709 | 102.6 | 947 | 103.2 |
| 平成 27 年度 | 1,388,771 | 99.5 | 470,717 | 97.5 | 926 | 97.8 |

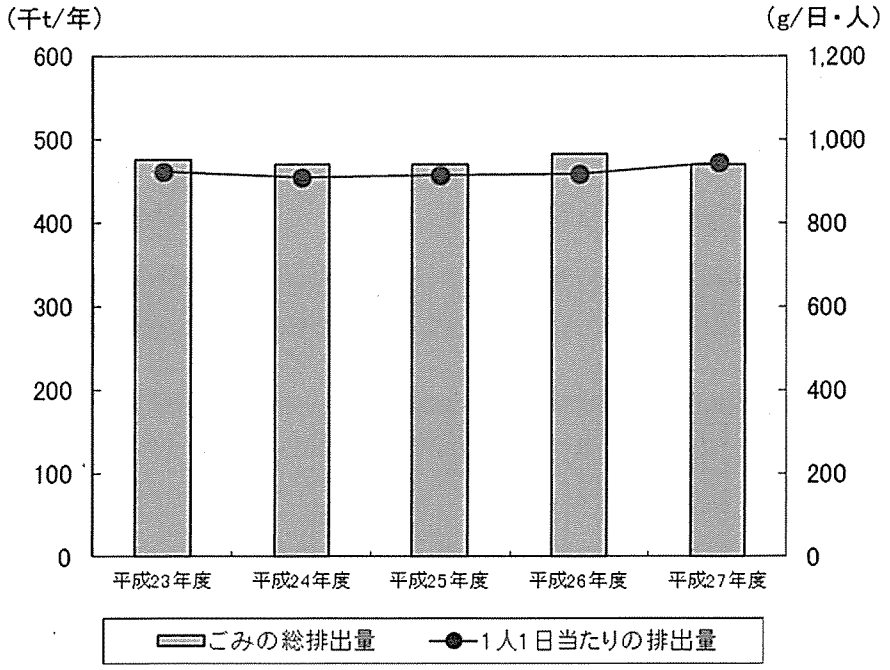
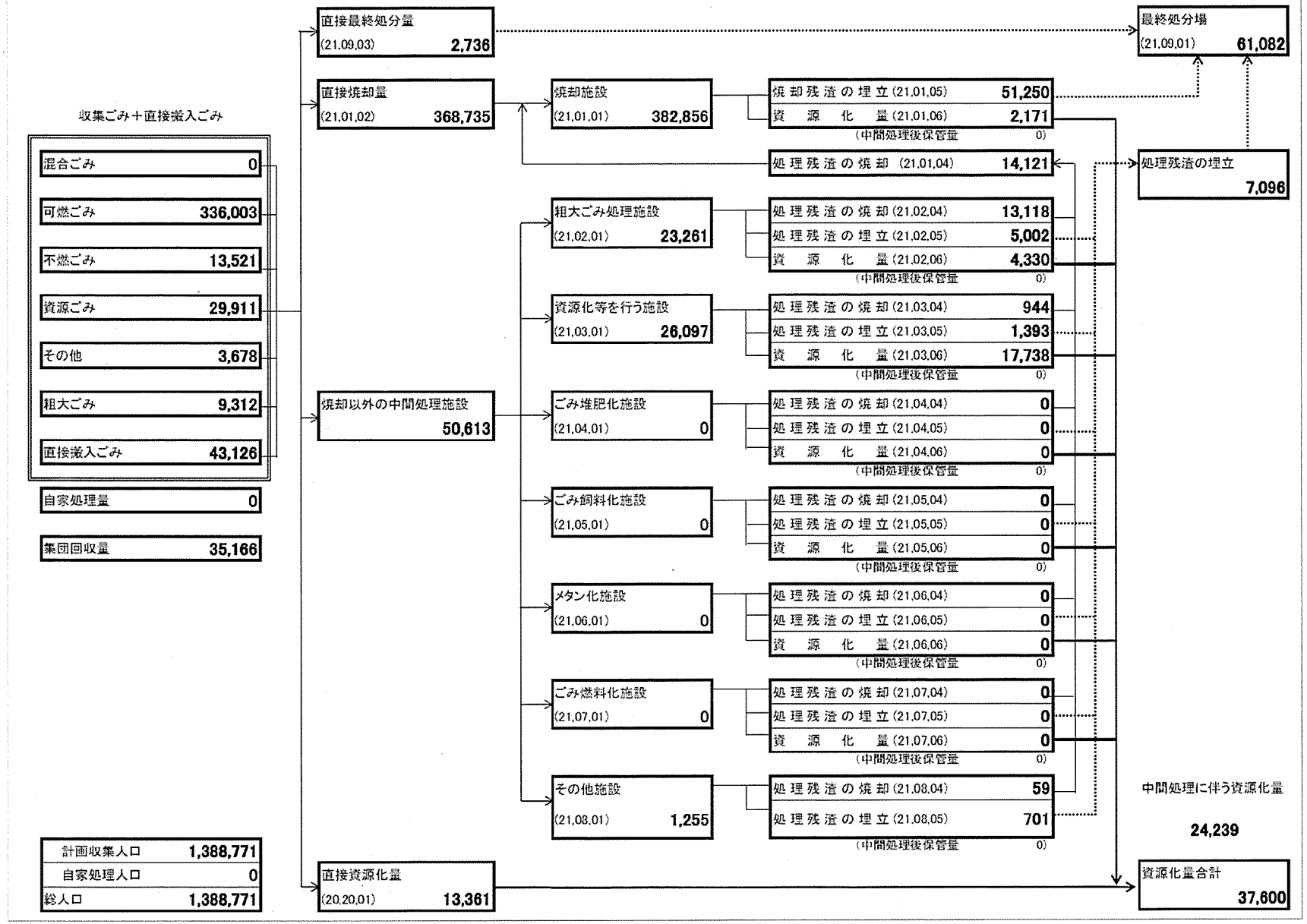



図１　ごみの総排出量・１人１日当たりの排出量の経年変化(平成 23 年度～平成 27 年度)

## 2 ごみ処理フローシート



## 3　ごみ処理の状況

### ①　ごみ収集・処理の現況

計画処理区域は県全域で、計画収集人口は県内総人口と同じである。計画処理区域の状況については、表 3-1 に示す。

表 3-1　計画処理区域の状況（平成 27 年度）

| | | |
|---|---|---|
| | 計画処理区域面積（km²） | 3,691 |
| | 総人口（人） | 1,388,771 |
| 総人口内訳 | 計画処理区域内人口(人) | 1,388,771 |
| | 計画収集人口（人） | 1,388,771 |
| | 自家処理人口(人) | 0 |
| | 計画処理区域外人口(人) | 0 |

### ②　ごみ収集形態の状況

収集形態別（直営、委託、許可）収集量は、表 3-2 に、また収集ごみ種別(混合ごみ、可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみ、その他等)収集量の内訳は、表 3-2 及び図 3-2 に示す。

また、各市町村における収集分別数は、市町村の財政事情、処理施設の能力、ごみ処理の方針により多岐にわたり、最多で 21 分別、最小 3 分別となっており、主流としては 5～9 分別で約 69%を占めている。市・郡部間、山間・平野部間で際だった傾向の差は見られない。収集方式はステーション形式が中心である。

表 3-2　収集形態別及び収集ごみ種別収集量（平成 27 年度）　(t/年)

| | 直　営 | 委　託 | 許　可 | 直接搬入 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 混合ごみ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 可燃ごみ | 137,122 | 92,476 | 106,405 | 31,944 | 367,947 |
| 不燃ごみ | 6,907 | 5,866 | 748 | 5,336 | 18,857 |
| 資源ごみ | 15,799 | 14,112 | 0 | 2,717 | 32,628 |
| 粗大ごみ | 5,469 | 3,664 | 179 | 2,545 | 11,857 |
| そ の 他 | 3,360 | 318 | 0 | 584 | 4,262 |
| 合　計 | 168,657 | 116,436 | 107,332 | 43,126 | 435,551 |
| 自 家 処 理 量 | | | | | 0 |
| 家電４品目収集量 | | | | | 51 |
| 総　排　出　量 | | | | | 435,602 |

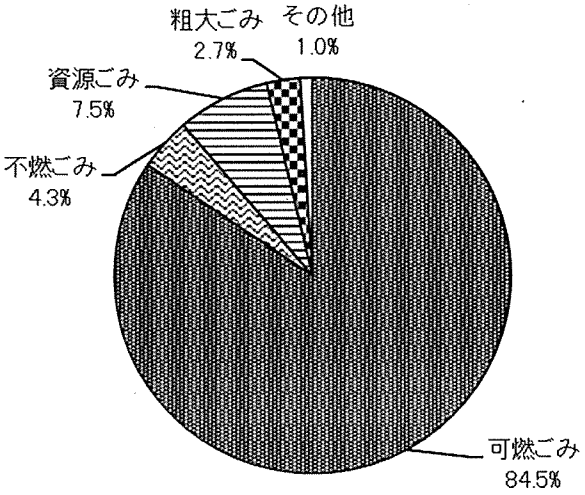



図 3-2　収集ごみ種別収集量（平成 27 年度）

③　ごみ処理の内訳

平成 27 年度におけるごみ処理の状況は、市町村等においてすべて処理されており、その量は 435,445 t/年（100 %）となっている。

処理の内訳としては、直接焼却 84.7 %、焼却以外の中間処理 11.6 %、直接埋立 0.6 %、直接資源化 3.1%である。詳細については、表 3-3 に示す。

また、焼却により生じた焼却残渣のうち、51,250 t/年（95.9 %）が埋め立て処分され、2,171 t/年（4.1 %）が資源化されている。

表 3-3　ごみ処理の内訳（平成 27 年度）　　(t/年)

| 直接焼却 | 焼却以外の中間処理 | 直接埋立 | 直接資源化 | 自家処理 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 368,735 | 50,613 | 2,736 | 13,361 | 0 | 435,445 |
| 84.7% | 11.6% | 0.6% | 3.1% | 0.0% | 100.0% |

※前年度からの保管残量等があるため、排出量と処理量は一致しない場合があります

④　資源化の状況

平成 27 年度の資源化の状況は、公共関与によるものが 37,600 t/年、地域での集団回収等によるものが 35,166 t/年で、合計 72,766 t/年である。表 3-4-1 に資源化の状況、表 3-4-2 及び図 3-3 に資源化量の推移を示す。

表 3-4-1　資源化の状況（平成 27 年度）　　(t/年)

| | 公共関与（直接資源化量・中間処理後再生利用量） | 集団回収 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 紙類(紙パック・紙製容器包装除く) | 10,612 | 31,687 | 42,299 |
| 紙パック | 120 | 101 | 221 |
| 紙製容器包装 | 644 | 1,062 | 1,706 |
| 金属類 | 7,743 | 383 | 8,126 |
| ガラス類 | 6,816 | 21 | 6,837 |
| ペットボトル | 1,683 | 0 | 1,683 |
| 白色トレイ | 919 | 0 | 919 |
| 容器包装プラスチック（白色トレイ除く） | 854 | 0 | 854 |
| プラスチック類（白色トレイ・容器包装プラスチック除く） | 787 | 321 | 1,108 |
| 布類 | 1,333 | 1,591 | 2,924 |
| 肥料 | 123 | 0 | 123 |
| 飼料 | 0 | 0 | 0 |
| 溶融スラグ | 0 | 0 | 0 |
| 固形燃料 | 0 | 0 | 0 |
| 燃料 | 0 | 0 | 0 |
| 焼却灰・飛灰のセメント原料化 | 359 | 0 | 359 |
| セメント等への直接投入 | 0 | 0 | 0 |
| 飛灰の山元還元 | 0 | 0 | 0 |
| 廃食用油 | 27 | 0 | 27 |
| その他 | 5,580 | 0 | 5,580 |
| 合　計 | 37,600 | 35,166 | 72,766 |

表 3-4-2　資源化量の推移

| | ごみ処理量 | 資源化量（t/年） | | | リサイクル率 |
|---|---|---|---|---|---|
| | (t/年) | 公共関与 | 集団回収 | 合　計 | (%) |
| 平成 23 年度 | 453,979 | 40,323 | 24,386 | 64,709 | 13.5% |
| 平成 24 年度 | 443,589 | 40,377 | 21,626 | 62,003 | 13.3% |
| 平成 25 年度 | 449,568 | 38,139 | 23,824 | 61,963 | 13.1% |
| 平成 26 年度 | 448,392 | 39,500 | 36,134 | 75,634 | 15.6% |
| 平成 27 年度 | 435,445 | 37,600 | 35,166 | 72,766 | 15.5% |

リサイクル率（%）
＝(直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量)/(ごみ処理量+集団回収量)*100

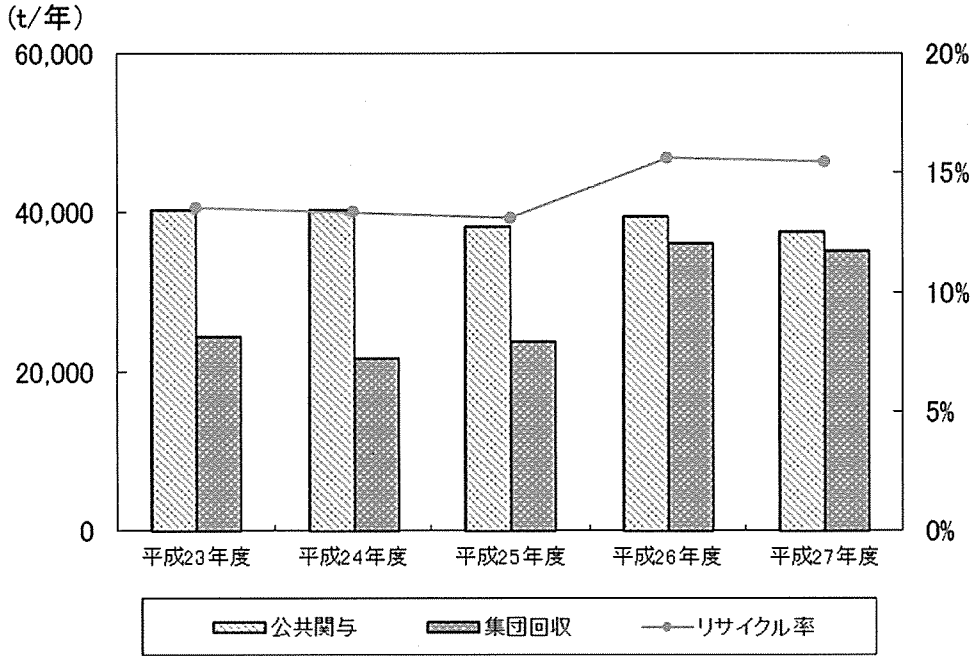



図 3-3　資源化量の推移

### ⑤　容器包装リサイクル法に基づく分別収集の状況

「容器包装リサイクル法」は、家庭ごみに占める割合が高い容器包装廃棄物の分別収集及び再商品化を促進させ、一般廃棄物の減量及び再生資源の十分な利用等を通じ、生活環境の保全及び健全かつ持続可能な発展に寄与することを目的として平成 7 年 6 月に成立し、平成 9 年 4 月より「スチール缶」、「アルミ缶」、「ガラスびん（無色、茶色、その他)」、「ペットボトル」、「紙パック」の 5 種類 7 品目で実施され、平成 12 年 4 月から「その他プラスチック」、「その他紙」及び「段ボール」の 3 種類が加えられ、完全施行された。市町村は、容器包装リサイクル法の規定により策定した「市町村分別収集計画」に基づき、分別収集を行っている。

平成 27 年度の分別収集及び再商品化状況は、表 3-5 に示すように概ね計画量が収集され、再商品化されている状況にある。

表 3-5　分別回収・再商品化実績（平成 27 年度）

| 品目名 | 計画量（t/年）① | 分別収集量（t/年）② | 収集率（%）②/① | 再商品化量（t/年）③ | 再商品化率（%）③/② | 実施市町村数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 無色ガラス | 3,595 | 3,046 | 84.7 | 2,890 | 94.9 | 28 |
| 茶色ガラス | 2,593 | 2,208 | 85.2 | 2,095 | 94.9 | 28 |
| その他ガラス | 1,474 | 1,528 | 103.7 | 1,470 | 96.2 | 29 |
| 紙製容器包装 | 524 | 14 | 2.7 | 14 | 100.0 | 3 |
| ペットボトル | 1,849 | 1,934 | 104.6 | 1,849 | 95.6 | 31 |
| プラスチック製容器包装(白色トレイを除く) | 4,545 | 5,743 | 126.4 | 5,530 | 96.3 | 18 |
| 白色トレイ | 53 | 39 | 73.6 | 39 | 100.0 | 12 |
| スチール製容器包装 | 2,192 | 1,451 | 66.2 | 1,384 | 95.4 | 32 |
| アルミ製容器包装 | 1,417 | 1,055 | 74.5 | 1,008 | 95.5 | 32 |
| 段ボール製容器包装 | 4,198 | 3,169 | 75.5 | 3,145 | 99.2 | 30 |
| 飲料用紙製容器 | 216 | 141 | 65.3 | 141 | 100.0 | 18 |
| 合計 | 22,656 | 20,328 | 89.7 | 19,565 | 96.2 | - |

※上記実績は、表 3-4-1「資源化の状況」に含まれている。

### ⑥　廃棄物処理事業経費（ごみ）

廃棄物処理事業経費は、大きく分けて処理施設に係る建設・改良費と処理・維持管理費に分けられる。

平成 27 年度の建設・改良費は、2,370,408 千円で、また処理・維持管理費については 18,783,909 千円、その他 518,987 千円、合計 21,673,304 千円となっており、処理・維持管理費が、全体の 86.7%を占めている。また、1t 当たりの処理経費は、43 千円で、年間 1 人当たりの処理経費は、14 千円となっている。表 3-6 に廃棄物処理事業経費の推移を示す。

表 3-6　廃棄物処理事業経費（ごみ）の推移（千円）

| | 建設・改良費 | 処理・維持管理費 | その他 | 合　計 | 1t 当たり処理経費 | 1 人当たり処理経費 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 23 年度 | 1,417,906 | 20,434,468 | 883,472 | 22,735,846 | 50 | 16 |
| 平成 24 年度 | 907,588 | 18,725,476 | 1,225,984 | 20,859,048 | 42 | 13 |
| 平成 25 年度 | 3,078,801 | 20,894,880 | 913,782 | 24,887,463 | 47 | 15 |
| 平成 26 年度 | 1,609,290 | 19,862,217 | 1,124,918 | 22,596,425 | 44 | 14 |
| 平成 27 年度 | 2,370,408 | 18,783,909 | 518,987 | 21,673,304 | 43 | 14 |

## 4　ごみ処理施設の整備状況

### ①　ごみ焼却施設

県内のごみの焼却施設は、平成 27 年度末で 26 施設が稼働しており、その処理能力は県全体で 2,346 t/日である。また、ダイオキシン対策については、現在すべての施設が対策を完了している。

表 4-1　県内のごみ焼却施設一覧

| 設置主体 | 所 在 地 | 能力 (t/日) | 処理方式 | 竣工年月 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 奈良市 | 奈良市左京 5-2<br>〃 | 360<br>120 | 全連<br>〃 | S60.8<br>S57.3 | |
| 大和高田市 | 大和高田市今里川合方 23 | 150 | 全連 | S61.3 | |
| 大和郡山市 | 大和郡山市九条町 80 | 180 | 全連 | S60.11 | |
| 天理市 | 天理市嘉幡町 180 | 220 | 全連 | S57.3 | 山添村、川西町、三宅町 |
| 橿原市 | 橿原市川西町 1038-2 | 255 | 全連 | H15.4 | |
| 桜井市 | 桜井市浅古 485-1 | 150 | 全連 | H14.11 | |
| 五條市 | 五條市北山町 932 | 70 | 准連 | H6.9 | |
| 生駒市 | 生駒市俵口町 2116-91 | 220 | 全連 | H3.3 | |
| 葛城市 | 葛城市笛堂 282 | 78 | 准連 | S48.4 | |
| 宇陀市 | 宇陀市大宇陀岩清水 1820 | 27 | 機バ | H9.8 | |
| 平群町 | 平群町椿井 1737 | 35 | 機バ | H4.3 | |

| 設置主体 | 所 在 地 | 能力 (t/日) | 処理方式 | 竣工年月 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 三郷町 | 三郷町勢野 2141 | 40 | 准連 | H2.3 | |
| 斑鳩町 | 斑鳩町幸前 2-8-9 | 40 | 機バ | S57.3 | 休止中 |
| 安堵町 | 安堵町笠目 326-1 | 20 | 機バ | H3.10 | |
| 田原本町 | 田原本町西竹田 279 | 60 | 准連 | S60.11 | |
| 明日香村 | 明日香村畑 | 6 | 機バ | H14.3 | |
| 上牧町 | 香芝市上中 3350 | 15 | 機バ | S46.3 | |
| 河合町 | 河合町山坊 683-1 | 30 | 機バ | S52.2 | |
| 下市町 | 下市町新住 1010 | 20 | 機バ | S61.6 | 休止中 |
| 十津川村 | 十津川村高滝 190-1 | 10 | 機バ | H4.8 | |
| 上下北山衛生一部事務組合 | 下北山村下池原 789-2 | 5 | 機バ | H15.3 | 上北山村、下北山村 |
| 香芝王寺環境施設組合 | 香芝市尼寺 615 | 150 | 全連 | S57.2 | 香芝市、王寺町 |
| 吉野広域行政組合 | 吉野町立野 767-2 | 25 | 機バ | H4.6 | 吉野町、川上村、東吉野村 |
| 南和広域衛生組合 | 大淀町芦原 185 | 40 | 准連 | H6.3 | 大淀町、高取町、黒滝村、天川村、下市町 |
| 東宇陀環境施設組合 | 宇陀市室生大野 3783 | 20 | 機バ | H8.6 | 宇陀市(室生区)曽爾村、御杖村 |
| 稼働能力計 | 26　施設 | 2,346　t/日 | | | |

※処理方式欄の「全連」は連続燃焼式、「准連」は准連続燃焼式、「機バ」は機械化バッチ燃焼式。

② ごみ燃料化施設

県内のごみ燃料化施設は、平成 27 年度末で 1 施設が稼働しており、その処理能力は全体で 35 t/日である。

表 4-2　県内のごみ燃料化施設一覧

| 設置主体 | 所在地 | 能力　(t/日) | 処理方式 | 竣工年月 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 広陵町 | 広陵町古寺 81 | 35 | RDF・炭化 | H19.2 | |

③　粗大ごみ処理施設

県内の粗大ごみ処理施設は、平成 27 年度末で 11 施設が稼働しており、その処理能力は全体で 301 t/日である。

表 4-3　県内の粗大ごみ処理施設一覧

| 設置主体 | 所在地 | 能力 (t/日) | 処理方式 | 竣工年月 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 奈良市 | 奈良市左京 5-2 | 100 | 破砕 | H1.3 | |
| 大和高田市 | 大和高田市今里川合方 23 | 30 | 併用 | S58.3 | |
| 天理市 | 天理市嘉幡町 180 | 50 | 併用 | S52.3 | 山添村、川西町、三宅町 |
| 五條市 | 五條市北山町 932 | 25 | 併用 | H6.9 | |
| 御所市 | 御所市栗坂 975 | 15 | 併用 | H6.9 | 休止中 |
| 三郷町 | 三郷町勢野 2141 | 9 | 圧縮 | H2.3 | |
| 田原本町 | 田原本町西竹田 279 | 15 | 破砕 | S60.11 | |
| 河合町 | 河合町山坊 683-1 | 6 | 破砕 | H3.3 | |
| 香芝王寺環境施設組合 | 香芝市尼寺 615 | 30 | 併用 | S57.6 | 香芝市、王寺町 |
| 吉野広域行政組合 | 吉野町立野 767-2 | 13 | 併用 | H5.5 | 吉野町、川上村東吉野村 |
| 南和広域衛生組合 | 大淀町芦原 185 | 8 | 併用 | H6.3 | 大淀町、高取町黒滝村、天川村下市町 |
| 稼働能力計 | 11　施設 | 301　t/日 | | | |

※破砕：原則として家具等可燃性粗大ごみを破砕することにより、容易に焼却できるよう処理する施設
※圧縮：不燃性粗大ごみを破砕・圧縮する施設
※併用：可燃性及び不燃性粗大ごみを破砕（粉砕）する施設

④　廃棄物再生利用施設

県内の廃棄物再生利用施設は、平成 27 年度末で 5 施設が稼働しており、その処理能力は全体で 98 t/日である。

表 4-4　廃棄物再生利用施設

| 設置主体 | 所在地 | 能力 (t/日) | 処理方式 | 竣工年月 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 橿原市 | 橿原市東竹田町 1-1 | 47 | 破砕圧縮<br>機械選別 | H14.3 | |
| 桜井市 | 桜井市浅古 485-1 | 30 | 破砕圧縮<br>機械選別 | H15.3 | |
| 五條市 | 五條市北山町 932 | 7 | 圧縮<br>機械選別 | H16.3 | |
| 広陵町 | 広陵町古寺 81 | 10 | 破砕圧縮<br>機械選別 | H19.2 | |
| 南和広域衛生組合 | 大淀町芦原 185 | 4 | 磁選別<br>手選別 | H6.3 | 大淀町、高取町<br>黒滝村、天川村<br>下市町 |
| 稼働能力計 | 5　施設 | 98　t/日 | | | |

⑤　最終処分場

県内の最終処分場は、平成 27 年度末で 8 箇所あり、埋立容量は全体で 1,756,313 $m^3$ である。その他として、大阪沖に、近畿 2 府 4 県の自治体等が出資する広域処分場がある。

表 4-5　最終処分場

| 市町村名 | 所在地 | 埋立地面積（$m^2$） | 埋立容量（$m^3$） |
|---|---|---|---|
| 奈良市南部 | 奈良市米谷町 | 59,000 | 819,610 |
| 奈良市緊急 | 奈良市奈良阪町 1346 | 27,400 | 264,403 |
| 大和郡山市 | 大和郡山市山田町 843 | 22,000 | 180,000 |
| 天理市 | 山辺郡山添村中峯山地内 | 10,500 | 94,500 |
| 桜井市 | 桜井市下り尾 819-1 | 5,400 | 30,000 |
| 五條市 | 五條市北山町 932 | 16,600 | 133,800 |
| 斑鳩町 | 斑鳩町大字法隆寺 4331 | 12,100 | 39,000 |

| 市町村名 | 所在地 | 埋立地面積（m²） | 埋立容量（m³） |
|---|---|---|---|
| 大淀町 | 大淀町下渕 1641-16 | 17,160 | 95,000 |
| 吉野広域行政組合 | 吉野町立野 767-2 | 12,185 | 100,000 |

| 広域処分場 | 所在地 | 埋立地面積（ha） | 埋立容量（m³）※ |
|---|---|---|---|
| 大阪湾広域臨海環境整備センター大阪沖埋立処分場 | 大阪港<br>大阪市此花区北港緑地 | 95 | 14,000,000<br>8,400,000 |

※上段：埋立容量合計　下段：一般廃棄物埋立容量

## 第２章　し尿処理の概要

### １　し尿の処理量

平成 27 年度におけるし尿等の総処理量は、224,067 kl/年であり、前年度と比較してやや減少している。内訳としては、生し尿が 65,642 kl/年、浄化槽汚泥が 158,069 kl/年、自家処理が 356 kl/年である。表１及び図１にし尿等の総処理量の推移を示す。

表１　し尿等の総処理量の推移

（kl/年）

| | 生し尿 | 浄化槽汚泥 | 自家処理 | 合計 | 伸び率 (%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成 23 年度 | 79,462 | 171,908 | 800 | 252,170 | 100.8 |
| 平成 24 年度 | 74,852 | 176,215 | 395 | 251,462 | 99.7 |
| 平成 25 年度 | 71,938 | 173,259 | 375 | 245,572 | 97.7 |
| 平成 26 年度 | 68,052 | 169,526 | 390 | 237,968 | 96.9 |
| 平成 27 年度 | 65,642 | 158,069 | 356 | 224,067 | 94.2 |

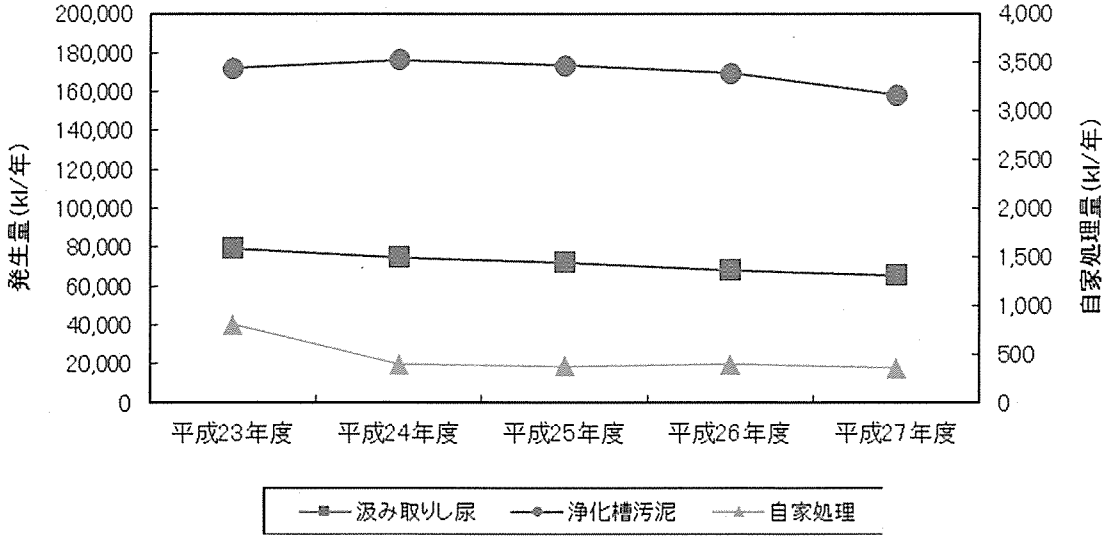



図１　し尿等の総処理量の推移

## 2　し尿処理フローシート

| | | |
|---|---|---|
| 非水洗化 | 計画収集人口 | 69,075 |
| | 自家処理人口 | 170 |
| | 小計 | 69,245 |
| 水洗化 | 下水道人口 | 997,287 |
| | ｺﾐﾌﾟﾗ人口 | 8,375 |
| | 浄化槽人口 | 313,864 |
| | 小計 | 1,319,526 |
| 総計 | | 1,388,771 |
| 外国人人口 | | 10,818 |

浄化槽人口のうち合併処理浄化槽人口

138,216 人

| | |
|---|---|
| 水洗化率： | 95.0% |
| 非水洗化率： | 5.0% |
| 下水道水洗化率： | 71.8% |
| 浄化槽水洗化率： | 22.6% |
| うち合併処理： | 10.0% |
| 計画収集率： | 99.8% |
| 自家処理率： | 0.2% |

| 処理量 | | 汲み取りし尿 (kl) | 浄化槽汚泥 (kl) | 合計 (kl) | 構成比 | 処理残渣搬出量 (t) | 資源化量 (t) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計画処理量 | し尿処理施設 | 64,047 | 153,435 | 217,482 | 97.2% | 2,093 | 3,322 |
| | ごみ堆肥化施設 | 0 | 0 | 0 | 0.0% | 0 | 0 |
| | メタン化施設 | 0 | 0 | 0 | 0.0% | 0 | 0 |
| | 下水道投入 | 468 | 821 | 1,289 | 0.6% | — | — |
| | 農地還元 | 0 | 0 | 0 | 0.0% | — | — |
| | その他 | 1,127 | 3,813 | 4,940 | 2.2% | — | — |
| | 小計 | 65,642 | 158,069 | 223,711 | 100.0% | — | — |
| 自家処理量 | | 127 | 229 | 356 | — | — | — |
| 合計 | | 65,769 | 158,298 | 224,067 | — | 2,093 | 3,322 |

| 収集量 | 汲み取りし尿 (kl) | 浄化槽汚泥 (kl) | 合計 (kl) |
|---|---|---|---|
| 直営 | 4,184 | 6,621 | 10,805 |
| 委託 | 36,260 | 19,291 | 55,551 |
| 許可 | 25,198 | 132,157 | 157,355 |
| 合計 | 65,642 | 158,069 | 223,711 |

t/年

| し尿処理施設の処理工程からの処理残渣の処理内訳 | 処理量・処理向け搬出量 | 残渣処分量(埋立) |
|---|---|---|
| し尿処理施設内の焼却 | 3,213 | 324 |
| し尿処理施設内の堆肥化･メタン発酵等 | 470 | 0 |
| ごみ焼却施設 | 876 | 503 |
| ごみ堆肥化施設 | 660 | 0 |
| メタン化施設 | 0 | 0 |
| 下水道処理施設 | 0 | — |
| 農地還元等の再生利用 | 0 | — |
| 直接埋立 | 0 | — |
| その他の搬出処理 | 233 | — |
| 合計 | 5,452 | 827 |

## 3　し尿処理の状況

### ①　し尿収集・処理の現況

し尿は、水洗便所とくみ取り便所へ排泄され、水洗便所のものは、下水道・コミュニティ・プラント、浄化槽で処理され、また、くみ取り便所のものは、し尿処理施設で処理されている。表 3-1-1 に計画処理区域の状況を示す。

平成 27 年度末の水洗化率は 95.0%であり、前年度に比べ 0.6 ポイントの増加となっている。表 3-1-2 及び図 3-1 に水洗化率の推移を示す。

表 3-1-1　計画処理区域の状況（平成 27 年度）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 計画処理区域面積（km²） | | | | | 3,691 |
| 総人口（人） | | | | | 1,388,771 |
| 総人口内訳 | 計画処理人口（人） | | | | 1,388,771 |
| | | 非水洗化人口（人） | | | 69,245 |
| | | | 計画収集人口（人） | | 69,075 |
| | | | 自家処理人口（人） | | 170 |
| | | 水洗化人口（人） | | | 1,319,526 |
| | | | 公共下水道人口（人） | | 997,287 |
| | | | コミュニティ・プラント人口（人） | | 8,375 |
| | | | 浄化槽人口（人） | | 313,864 |
| | 計画処理区域外人口（人） | | | | 0 |

表 3-1-2　水洗化人口の経年変化

| | 総人口（人） | 水洗化人口（人） | | | | 水洗化率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 浄化槽 | 下水道 | ｺﾐｭﾆﾃｨ・ﾌﾟﾗﾝﾄ | 合　計 | |
| 平成 23 年度 | 1,411,454 | 364,960 | 950,550 | 4,880 | 1,320,390 | 93.5 |
| 平成 24 年度 | 1,409,575 | 355,012 | 962,510 | 4,911 | 1,322,433 | 93.8 |
| 平成 25 年度 | 1,404,418 | 339,818 | 975,065 | 4,335 | 1,319,218 | 93.9 |
| 平成 26 年度 | 1,396,355 | 331,310 | 982,307 | 4,096 | 1,317,713 | 94.4 |
| 平成 27 年度 | 1,388,771 | 313,864 | 997,287 | 8,375 | 1,319,526 | 95.0 |

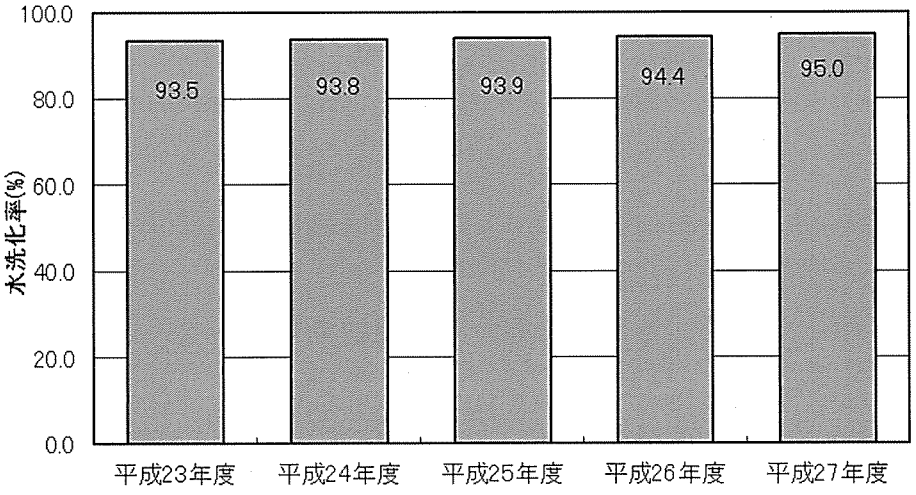



図 3-1　水洗化率の経年変化

② し尿収集形態の状況

収集形態は、直営、委託及び許可に大別できるが、平成 27 年度の県内の収集形態の状況は、し尿の場合、直営のみが 2 市町村、委託のみが 19 市町村、許可のみが 14 市町村、直営・委託が 1 市町村、直営・許可が 1 市町村、委託・許可が 2 市町村である。また、浄化槽汚泥の場合、直営のみが 1 市町村、委託のみが 8 市町村、許可のみが 26 市町村、直営・委託が 0 市町村、直営・許可が 2 市町村、委託・許可が 2 市町村である。表 3-2 に収集形態別収集量を示す。

表 3-2　収集形態別収集量（平成 27 年度）(kl/年)

| し尿 | | | | 浄化槽汚泥 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 直営 | 委託 | 許可 | 計 | 直営 | 委託 | 許可 | 計 |
| 4,184 | 36,260 | 25,198 | 65,642 | 6,621 | 19,291 | 132,157 | 158,069 |

③ 廃棄物処理事業経費（し尿）

平成 27 年度のし尿に係る建設・改良費は 16,791 千円で、また処理・維持管理費は 3,110,650 千円、その他 234,884 千円、合計 3,362,325 千円となっており、処理・維持管理費は全体の 92.5 %を占めている。また、1kl 当たりの処理経費は 15 千円で、年間 1 人当たりの処理費（浄化槽及びくみ取り人口当たり）は、8.8 千円となっている。表 3-3 に廃棄物処理事業経費の推移について示す。

表 3-3　廃棄物処理事業経費の推移（し尿）(千円)

| | 建設・改良費 | 処理・維持管理費 | その他 | 合計 | 1kl 当たり処理経費 | 1 人当たり処理経費 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 23 年度 | 137,672 | 6,298,497 | 1,198,752 | 7,634,921 | 30 | 17 |
| 平成 24 年度 | 909,151 | 5,773,280 | 700,733 | 7,383,164 | 30 | 16 |
| 平成 25 年度 | 168,832 | 5,856,184 | 762,976 | 6,787,992 | 28 | 15 |
| 平成 26 年度 | 12,307 | 4,746,350 | 521,772 | 5,280,429 | 22 | 12 |
| 平成 27 年度 | 16,791 | 3,110,650 | 234,884 | 3,362,325 | 15 | 8.8 |

## 4　し尿処理施設の整備状況

### ①　し尿処理施設

表 4-1　し尿処理施設

| 設置主体 | 所在地 | 能力 (kl/日) | 処理方式 | 竣工年月 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 奈良市 | 奈良市大安寺西 2-281 | 90 | 高負荷膜分離 | H15.3 | |
| 大和郡山市 | 大和郡山市本庄町 316 | 66 | 高負荷 | H5.3 | |
| 天理市 | 天理市嘉幡町 189 | 57 | 高負荷 | H4.10 | 川西町、三宅町 |
| 橿原市 | 橿原市東竹田町 148-1 | 96 | 高負荷膜分離 | H19.3 | 高取町 |
| 桜井市 | 桜井市浅古 485-2 | 51 | 高負荷膜分離 | H3.3 | |
| 五條市 | 五條市二見 5-4-2 | 48 | 高負荷 | H27.3 | 吉野町 |
| 生駒市 | 生駒市北田原町 2476-8 | 80 | 高負荷膜分離 | H13.3 | |
| 斑鳩町 | 斑鳩町神南 2-5-13 | 40 | 標脱 | S52.3 | |
| 田原本町 | 田原本町黒田 50-1 | 50 | 標脱 | S58.3 | |
| 下市町 | 下市町新住 1010 | 25 | 高負荷 | H23.3 | 大淀町 |
| 十津川村 | 十津川村高滝 190-1 | 6 | 膜分離 | H22.4 | |

| 設置主体 | 所在地 | 能力 (kl/日) | 処理方式 | 竣工年月 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 葛城地区清掃事務組合 | 御所市僧堂 333 | 240 | 高負荷膜分離 | H15.3 | 大和高田市、御所市、香芝市、葛城市、三郷町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、黒滝村、川上村 |
| 山辺環境衛生組合 | 山添村遅瀬 2384 | 20 | 高負荷 | S63.3 | 山添村<br>奈良市（都祁・月ヶ瀬地区） |
| 宇陀衛生一部事務組合 | 宇陀市大宇陀和田 262 | 35 | 高負荷 | S63.3 | 宇陀市、曽爾村<br>御杖村、東吉野村 |
| 上下北山衛生一部事務組合 | 下北山村下池原 | 3 | 好気 | S46.3 | 上北山村、下北山村 |
| 稼働能力計 | 15　施設 | 907　kl/日 | | | |

※「処理方式」欄の「嫌気」は嫌気性消化・活性汚泥処理方式、「好気」は好気性消化・活性汚泥処理方式
「好希釈」は好気性処理のうち希釈ばっ気・活性汚泥処理方式、「好一段」は好気性処理のうち一段活性汚泥処理方式、「標脱」は標準脱窒素処理方式（旧低二段）
「高負荷」は高負荷脱窒素処理方式
「膜分離」は膜分離処理方式
「膜外離」は膜外ろ過膜処理方式

② コミュニティ・プラント

表 4-2　コミュニティ・プラント

| 設置主体 | 所在地 | 能力（m³/年） | 処理方式 | 竣工年度 |
|---|---|---|---|---|
| 大和郡山市 | 大和郡山市矢田山町 | 342,911 | 標準活性汚泥方式 | S44 |
| 三郷町 | 三郷町南畑<br>三郷町勢野<br>三郷町勢野 4 丁目 | 9,131<br>117,430<br>29,941 | 標準活性汚泥方式<br>標準活性汚泥方式<br>標準活性汚泥方式 | S50<br>S54<br>S61 |
| 稼働能力計 | 4　施設 | 499,413　m³/年 | | |